

イタリアのベルスコニ元首相

総選挙で復権もくろむ

4日投票開票 新首相選び 士道権も

【ローマ共同】イタリア総選挙の投票率が4日になると、汚職や賄賂など数々のスキヤンタルに見舞われてきたベルスコニ元首相(81)が復権を狙い、選舉運動を活発化させている。結果次第では、新首相選びの主導権を握る「キングメイカ」として君臨する可能性も出てきた。

「私は豪傑ワインのうちなものよりも近い勢力とみられている。年とともに熟成され、今や完璧となつた」。ベルスコニ氏はボビュリズム(大衆迎合)的政策で人気を集め、3度首相を務めた。ただ財政出資し、自身が率いる中道右派の危機に十分対応できず、未成年者野党「フルツア・イタリア」をアピールする。2016年に心臓大動脈弁の手術を受けたことを感じさせないほんだ。

世論調査ではフルツア・イタリアを含む4党でつくる中道右派連合が支持率37%でトップ。過半数の議席獲得は難しいが、政権に

ベルスコニ氏はボビュリズム(大衆迎合)的政策で人気を集め、3度首相を務めた。ただ財政危機に十分対応できず、未成年者野党「フルツア・イタリア」をアピールする。2016年に心臓大動脈弁の手術を受けたことを感じさせないほんだ。

フルツア・イタリア単独での支持率は16%。ベルスコニ氏の人気が復活したとは言い難い。

守らす失望した」と評する。

しかし与党の中道左派、民主党は内紛続きで低迷し、新興組織「五つ星運動」の政権運営能力は未知数だ。ホロニヤ大のジャンラントコ・バスキーノ名誉教授(政治学者)は、消極的選択の結果として一定程度の支持を集めていると指摘する。

中道右派連合が勝利した場合、ベルスコニ氏は連立政権樹立に動き、新首相の「指名」に乗り出す公算が大きい。バスキーノ氏は、政権樹立に成功すれば重要な政策の決定にも関わってくる可能性があるとみる。さらに、公職禁止が解かれる19年を待つて「もう一度総選挙を実施することを狙つしているのではないか」と分析した。

2月25日、イタリア・ミラノでの集会で演説するベルスコニ元首相(AFP共同)

(C) 中国新聞社 無断転載、複製及び録音は禁じます。

